



## 児童図書研究室だより

令和2年3月25日 発行

Vol. 20

## 2019年 国内子どもの本に関する賞

2019年の国内の主要な児童文学賞で、当館に所蔵している本をまとめました。児童図書研究室にて3月19日(木)から5月19日(火)まで『2019年主な児童文学賞受賞作品』を展示しています。ぜひ、手にとってご覧ください。

賞		タイトル	著者	出版社	出版年	請求記号
日本絵本賞	大賞	もぐらはすごい	アヤ井アキコ/著	アリス館	2018.5	E/アヤ/
	絵本賞	大根はエライ	久住昌之/文・絵	福音館書店	2018.1	C626/クス/
		たぬきの花よめ道中	最上一平/作 町田尚子/絵	岩崎書店	2018.3	E/マチ/
	翻訳絵本賞	あめだま	ペク・ヒナ/作 長谷川義史/訳	ブロンズ新社	2018.8	E/ヘク/
読者賞	あめだま	ペク・ヒナ/作 長谷川義史/訳	ブロンズ新社	2018.8	E/ヘク/	
坪田譲治文学賞		あららのはたけ	村中李衣/作	偕成社	2019.7	C913/ムラ/
講談社絵本賞	絵本賞	つくえはつくえ	五味太郎/作	偕成社	2018.6	E/コミ/
産経児童出版文化賞	大賞	それでも「ふるさと」シリーズ 全3巻(※)	豊田直巳/写真・文	農山漁村文化協会	2018.2	C369/トヨ/
	JR賞	しあわせの牛乳	佐藤慧/著 安田菜津紀/写真	ポプラ社	2018.3	C641/サト/
	美術賞	バッタロボットのぼうけん	まつおかたつひで/作	ポプラ社	2018.6	E/マツ/
	産経新聞社賞	ひだまり	林木林/文 岡田千晶/絵	光村教育図書	2018.11	E/オカ/
	フジテレビ賞	たまねぎとはちみつ	瀧羽麻子/作	偕成社	2018.12	C913/タキ/
	ニッポン放送賞	空の探検記	武田康男/著	岩崎書店	2018.11	C451/タケ/
	翻訳作品賞	ショッキングピンク・ショック!	キョウ・マクレア/文 ジュリー・モースタッド/絵	フレーベル館	2018.11	E/モス/
カタカタカタ		リン・シャオベイ/さく 宝迫典子/やく	ほるぶ出版	2018.8	E/リン/	
日本児童文学者協会賞		むこう岸	安田夏菜/著	講談社	2018.12	C913/ヤス
日本児童文学者協会新人賞		あさって町のフミオくん	屋田弥子/作 高島那生/絵	ブロンズ新社	2018.9	C913/ヒル/
		ピアノをきかせて	小俣麦穂/著	講談社	2018.1	C913/オマ/
日本児童文芸家協会賞		マレスケの虹	森川成美/作	小峰書店	2018.10	C913/モリ/
児童文芸新人賞		わたしの空と五・七・五	森苙こみち/作 山田和明/絵	講談社	2018.2	C913/モリ
小学館児童出版文化賞		ある晴れた夏の朝	小手鞠るい/著	偕成社	2018.8	C913/コテ/
		くろいの	田中清代/さく	偕成社	2018.10	E/タナ/
		わたしといろんなねこ	おくはらゆめ/作・絵	あかね書房	2018.6	C913/オク/
ひろすけ童話賞		ふでばこから空	北川チハル/作 よしざわけいこ/絵	文研出版	2019.5	C913/キタ/
小川未明文学賞	大賞	湊町の寅吉	藤村沙希/作 Minoru/絵	学研プラス	2019.12	C913/フジ/
野間児童文芸賞		ゆかいな床井くん	戸森しるこ/著	講談社	2018.12	C913/トモ/
けんぶち絵本の里大賞	大賞	おしっこちよっぴりもれたろう	ヨシタケシンスケ/作・絵	PHP研究所	2018.6	E/ヨシ/
	びばからす賞	おしりたんでいブッぽきやまのしろいかいぶつ!?	トロール/さく・え	ポプラ社	2018.12	E/トロ/
		ぼくはなきました	くずのきしげのり/さく 石井聖岳/え	東洋館出版社	2019.3	E/イシ/
		みえるとかみえないとか	ヨシタケシンスケ/さく 伊藤亜紗/そうだん	アリス館	2018.7	E/ヨシ/
アルパカ賞	ぼくのぼしよなのに	刀根里衣/著	NHK出版	2018.10	E/トネ/	
ニッサン童話と絵本のグランプリ	童話の部大賞	くじらすくい	水風紅美子/作 たなかやすひろ/絵	BL出版	2019.12	E/タナ/
	絵本の部大賞	びのちゃんときまむねこ	松丘コウ/作・絵	BL出版	2019.12	E/マツ/

※『それでもふるさと』シリーズは第1巻の情報を掲載

# 令和元年度 第1回ボランティアスキルアップ講座

令和元年6月12日 岡山県立図書館を会場に、令和元年度第1回  
県立図書館ボランティアスキルアップ講座（児童サービス支援コース）  
を開催しました。

## 「ことばを杖にして

～読みあいから見えてくるもの～

講師 村中李衣 氏（ノートルダム清心女子大学教授）



講師の村中氏は、児童書や絵本を精力的に執筆されるとともに、児童文学や児童文化の研究者としてもご活躍で、坪田譲治文学賞や日本絵本研究賞など数々の賞を受賞されています。講演では、村中氏の実践や研究に基づいたお話とともに、読みあいの実践が行われました。また、「感情を込めすぎず、淡々と読む方がいいのか」「絵本に書いてある言葉以外に、自分で言葉を加えてもいいのか」など、読み聞かせに携わる人が一度は感じたことがあるであろう疑問についてのご意見をいただきました。ここではその一部をご報告します。

村中氏が行った実験によると、読み聞かせの際に抑揚をつけて読んでも、あまり抑揚をつけずに読んでも、聞き手のリラックスの度合いとしては変わらなかったそうです。人の声で読んでもらうということ自体が、機械を通した音声よりも聞き手をリラックスさせる力を持っているとのこと。「淡々と読む」ということが、読み聞かせの手引書などでしばしば言われますが、本来は「自然に読む」というような意味合いであったものが、いつの間にか異なる解釈で語られるようになったのではないかと、とのことでした。手引書に書いてある内容と自分の経験との間に違和感を持っていた参加者の方からも、このお話で答えを得られた気がするとの感想が寄せられました。

また、絵本を介したコミュニケーションについての研究をされている村中氏ですが、講演ではその実践として『さわらせて』の絵本の読みあいを行いました。いろいろな動物に対して「〇〇さん、ちょっとさわらせて」とお願いすると、次々に了承の返事をしてくれるという内容ですが、返答の部分を参加者が一人一人順番に答えていくことで、個人の声の特徴と魅力が感じられ、「自分の毛並みを自慢しているよう」「うれしくて自分から差し出しているよう」など、それぞれの声から見えてくる風景の違いを感じることができました。「声を作った方が良いのか」「自分の声は読み聞かせに向いているのか」などの疑問に対して、それぞれの人に、それぞれの声の魅力があるのだという実感を得られる体験となりました。

講演の中では、読み手は自らが絵本の世界の住人となって、聞き手と絵本とを結び付けることが大切であるとのお話がされました。「絵本に書いていない言葉を付け加えてもいいか」「ハードカバーとソフトカバーの両方で出版されている場合にどちらを選ぶべきか」といった疑問については、その絵本の持つ世界が何を求めているかを考えた上で決めてもいいということ、ハードカバーとペーパーバック 2冊の『てじな』を読みくらべするを通して教えていただきました。それとともに、絵本の持つ魅力を引き出す手法の多彩さと、絵本の持っている可能性の大きさに気付かされました。私たち自身もまた、読み聞かせにおける自分たちの役割の重要性を再認識することができ、身の引き締まる思いでした。

### <講座の中で紹介された本>

書名	著者名	出版社
保育をゆたかに絵本でコミュニケーション	村中 李衣/著	かもがわ出版
ワークで学ぶ児童文化 感じあう伝えあう	村中 李衣/編著	金子書房
絵本の読みあいから見えてくるもの	村中 李衣/著	ぶどう社
さわらせて	みやまつ ともみ/さく	アリス館
てじな	土屋 富士夫/作	福音館書店

お話いただいた内容は、いずれも実践に基づいた、読み手と聞き手の両方の立場に立ったお話であり、講演を聞き、絵本に対する気持ちが新たになった、今後も続けていくための後押しをしていただけたような気がする、といったご感想も寄せられました。

読み手と絵本が生み出す世界と、子どもの感性が響き合う、絵本の読み聞かせが生み出す場を大切にするという、村中氏の絵本と子どもたちに対する愛情が感じられる講演会となりました。

# 展示「「小さなおばけ」出版40周年 角野栄子の世界」

2019年5月23日～7月17日まで、児童図書研究室展示1のスペースで「小さなおばけ」出版40周年 角野栄子の世界」と題して展示を行いました。

「小さなおばけ」シリーズは、1979年に第1作目となる『スパゲッティがたべたいよう』が出版されました。2019年『おばけのアッチ スパゲッティ・ノックダウン!』で第40作目を迎えた今シリーズは、出版当時から現在に至るまで子どもたちの心を捉え続け、世代を越えて愛されています。

展示では、角野栄子氏の略年譜で半生を振り返るとともに、著作の絵本や児童図書、角野氏の研究書を集めました。展示の様子と関連資料をご紹介します。

## 1 角野栄子

1935年東京都深川に生まれ、早稲田大学教育学部を卒業後、出版社に勤務します。結婚を経て退社した後、ブラジル滞在での体験を基にした『レイジンニョ少年 ブラジルをたずねて』で、ポプラ社より1970年にデビューしました。

絵本からファンタジー小説まで、ユーモアにあふれる魅力的な作品を数多く生み出しており、1985年刊『魔女の宅急便』は、後にスタジオジブリによりアニメーション映画化され、幅広い人々に人気を博しました。

産経児童出版文化賞、野間児童文学賞をはじめ数々の文学賞を受賞しており、2014年には旭日小綬章を叙勲、2018年には文学界のノーベル賞とも言われる国際アンデルセン賞を受賞しています。

## 2 代表的な作品

### 『スパゲッティがたべたいよう 角野栄子の小さなおばけシリーズ』(1979年 ポプラ社)

くいしんぼうおばけが女の子をおどかして、おいしいスパゲッティを取り上げようとしたところ、逆に女の子をおどかされてしまうというユーモラスなストーリー。シリーズを通してハンバーグやカレー、ケーキなど、子どもたちの大好きな食べものがやさしい言葉ながらも魅力的に表現されており、自分の体験を思い出しながら親しみを持って読むことができる、色褪せない魅力を持ったシリーズです。

### 『レイジンニョ少年 ブラジルをたずねて』(1970年 ポプラ社)

1959年からの2年間、自費移民として単身ブラジルに渡航した際の体験を基に、現地の人々との交流を色鮮やかに描いたデビュー作。当時、日本の裏側のブラジルへの道のりには船で2カ月もの期間を要していました。現代ほど外国に関する情報もなく、言葉も全く分からない土地での体験から、人種や言語の壁を越えて気持ちが通じた時の喜び、「答えは一つじゃない」という思いを強く抱いたといえます。この時の体験は、後の『魔女の宅急便』での、見知らぬ土地での人々との交流の描写にも活かされています。

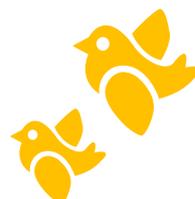
### 『魔女の宅急便』(1985年 福音館書店)

魔女のキキはほうきに乗って空を飛び、宅急便として町の人々に物とともに気持ちも届けていきます。メルヘンに登場するような魔女像ではなく、現代っ子の少女が親元を離れて成長する、等身大な魅力がリアリティを持って描かれています。本作は、野間児童文学賞、小学館文学賞、国際児童図書評議会オナーリスト文学賞を受賞しました。



#### <参考文献>

- 日本児童文学者協会／編『現代日本児童文学作家事典』教育出版センター新社 1987
- 『現代児童文学作家対談 3』偕成社 1988.12
- 大阪国際児童文学館／編『日本児童文学大事典 第1巻』大日本図書 1993.10
- 日本児童文学者協会／編『児童文学の魅力 日本編』文溪堂 1998.5
- 全国学校図書館協議会／編『子どもの本の書き手たち』全国学校図書館協議会 1999.8



# 児童図書研究書の紹介

2019年に発行された児童図書研究書のうち、下記の6点をご紹介します。

## 『昔話とその周辺—語りながら考えたこと』

筒井 悦子／著 みやび出版／発行 2019年 請求記号 016.29/ツ19/ 資料番号 0014851935

本書は、長年岡山で子どもたちに昔話を語り続けてきた筒井悦子氏が、語り部としての経験と学びを共にした方々へ向けて刊行した冊子をまとめたものです。ストーリーテリングの技法についてはもちろん、映像や音声とともに多量の情報を得ることが当たり前の現代において、語りという行為の持つ素朴で大きな力に気付かせてくれる一冊です。著者の様々な出会いや経験を通して、昔話や語りの魅力に触れてみてください。

## 『鏡の中のいわさきちひろ 絵描きとして、妻として、母として』

歌代 幸子／著 中央公論新社／発行 2019年 請求記号 726.601/ワ19/ 資料番号 0014919518

やさしく柔らかな色彩で愛らしい子どもを描き続けた、いわさきちひろ。著者がちひろとゆかりのある人物や街を訪れ、母として、妻として、一人の女性として生きた、ちひろの心の軌跡をたどります。波乱の人生を送りながらも、自分らしい絵を追求する姿勢、夫と息子を守る母としての姿、平和を願う思いなどについて、数々のエピソードや書籍・雑誌等で掲載されたちひろの言葉を通して、克明に描かれています。特に、絵本作家として新たな境地を拓ききっかけとなった『あめのひのおるすばん』の誕生秘話には、「絵本でなければできないこと」を追い求めた、ちひろの強い情熱を感じます。

## 『かがくのとものもと 月刊科学絵本「かがくのとも」の50年』

福音館書店／発行 2019年 請求記号 019.53/カ19/ 資料番号 0014969315

子ども向けの月刊科学絵本『かがくのとも』は、2019年で創刊50周年を迎えました。発刊に際しての情熱、加古里子や安野光雅、甲斐信枝といった絵本作家たちの科学絵本に対する思い、1冊の『かがくのとも』ができるまでのこだわりの数々を知ることができます。また、創刊号『しっぽのはたらき』からの601作品すべての表紙とあらすじがまとめて掲載されており、読み応えたっぷりです。子どもはもちろん、大人にも科学の本当の面白さを語りかけてくれる1冊です。読み終わった後は身近な科学に対する興味がどんどん湧いてくることでしょう。

## 『イソップ絵本はどこからきたのか —日英仏文化の環流—』

加藤 泰子／著 三宅 興子／著 高岡 厚子／著 三弥井書店／発行 2019年 請求記号 726.601/カ19/ 資料番号 0014942395

紀元前6世紀、ギリシャで奴隷の身分だったイソップが書いたとされるイソップ童話。本書は、イソップ童話が『エソポのハブラス』『伊曾保物語』を経てどのように日本で受け入れられ、そして変わっていったのかを、絵本の挿絵に焦点を当てて論じています。原本を写したようなものから、『鳥獣戯画』に代表されるような日本画の擬人化表現を活かしたものまで、絵本の多様な表現とその変化を、国際比較も交えながらカラーで辿る1冊です。

## 『子どもの本のもつ力 世界と出会える60冊』

清水 真砂子／著 大月書店／発行 2019年 請求記号 019.5/ミ19/ 資料番号 0014942361

『ゲド戦記』の翻訳や児童文学評論で知られる清水真砂子さんが、子どもたちに贈りたい60冊の児童書を紹介した本です。清水さんは、物語には教訓や「ためになる」ものを求めるのではなく、「たのしい」だけで十分」と言われます。また、詩集については「わかろうなんて考えなくていいの。そのままのしんで。」と言われます。そこには、清水さんの子どもの本に対する敬意や真摯な姿勢が感じられます。選書に役立つのはもちろんですが、エッセイ風に書かれているので読み物としても楽しめます。子どもや孫に本を贈りたい方、読み聞かせをされる方、子どもにかかわる仕事をされる方々におすすめの一冊です。

## 『子どもの心を動かす読み聞かせの本とは 解説&ブックガイド400』

日外アソシエーツ／発行 2019年 請求記号 019.53/カ19/ 資料番号 0015074172

本書は、子どもの心と言葉の成長になぜ「読み聞かせ」が大切なのかということや、家庭や教室での読み聞かせについて解説した本です。特に、著者の岡崎氏の教員経験を元に、「読み聞かせ」と「ひとり読み」の違いや、学力との関連、司書教諭・学校司書との連携についても書かれています。後半には「読み聞かせに向いている本」のブックガイドも収録されていて、教員、司書、ボランティアなど読み聞かせをされる方々に役立つ一冊です。

発行日 令和2年3月25日発行

発行 岡山県立図書館 サービス第一課 児童資料班

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2-6-30 Tel : 086-224-1286・1288 Fax : 086-224-1208